

地域別構想（素案）

< 目 次 >

| | |
|--------------------------|----|
| I 地域づくりの方針（地域別構想） | |
| 1 基本的な考え | 1 |
| 2 区域の設定 | 1 |
| II 社台地区 | |
| 1 地域の概要・特性 | 2 |
| 2 地域づくりに向けた町民の声 | 3 |
| 3 地域づくりの方針 | 4 |
| III 白老・森野地区 | |
| 1 地域の概要・特性 | 6 |
| 2 地域づくりに向けた町民の声 | 7 |
| 3 地域づくりの方針 | 8 |
| IV 萩野・石山地区 | |
| 1 地域の概要・特性 | 11 |
| 2 地域づくりに向けた町民の声 | 12 |
| 3 地域づくりの方針 | 13 |
| V 北吉原地区 | |
| 1 地域の概要・特性 | 15 |
| 2 地域づくりに向けた町民の声 | 16 |
| 3 地域づくりの方針 | 17 |
| VI 竹浦地区 | |
| 1 地域の概要・特性 | 19 |
| 2 地域づくりに向けた町民の声 | 20 |
| 3 地域づくりの方針 | 21 |
| VII 虎杖浜地区 | |
| 1 地域の概要・特性 | 23 |
| 2 地域づくりに向けた町民の声 | 24 |
| 3 地域づくりの方針 | 25 |

I 地域づくりの方針（地域別構想）

1 基本的な考え

地域別構想は、全体構想を踏まえた上で、各地域の特性を生かした魅力あるまちづくりを進めるための方針として定めるものです。

2 区分の設定

地域区分の設定は、本町を構成する様々な要素の中で地域が有する特性や生活圏など、いくつかのまとまりをもって地域を捉え区分します。

本町における地域区分の考え方は、JR室蘭線の6つの鉄道駅の配置や地勢的条件、用途地域指定等によるこれまでのまちなみ形成過程などの地域特性を踏まえ、「社台地区」、「白老・森野地区」、「萩野・石山地区」、「北吉原地区」、「竹浦地区」、「虎杖浜地区」の6地区に区分します。

■ 地域区分図



II 社台地区

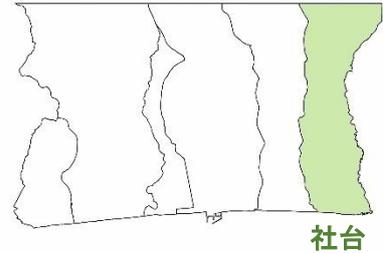
1 地域の概況・特性

(1) 地域の概況

本町の東部に位置する社台地区は苫小牧市と接しており、交通・交流の玄関口となっています。

国道 36 号沿いに集落が形成され、付近には競走馬の生産地としての広大な牧場が広がり、樽前山の雄姿と一体となった美しい景観が眺望できる地域です。

日本の滝百選に選ばれたインクラの滝や希少な動植物が見られるヨコスト湿原など豊かな自然に恵まれています。



社台

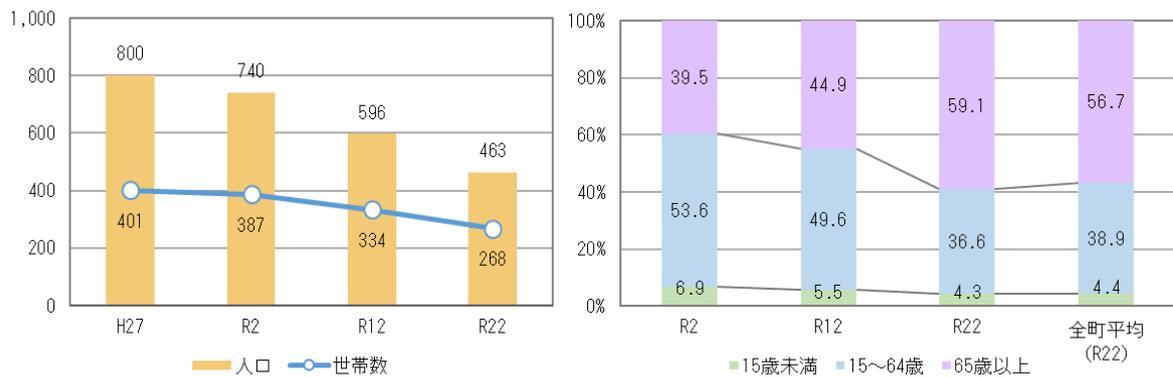


サラブレッド牧場（春）



ヨコスト湿原（ハマナス咲く）

(2) 人口・世帯数の動向



令和 2 年（2020 年）の人口は 740 人であり、町全体の人口の約 4.6%が居住しています。

20 年後の令和 22 年（2040 年）には、今より 280 人程度、人口が減少し、463 人となる見込みです。

年齢別人口をみると令和 22 年の年少人口比率は現在より 2.6%減の 4.3%に、老年人口比率は 19.6%増の 59.1%になると想定されています。

2 地域づくりに向けた町民の声

(1) 町民アンケート結果

社台地区における分野別方針等の今後の方向性は以下のとおりです。

| | |
|-----------|--|
| 土地 利 用 | ・活用可能な空き地・空家の有効活用 (22%) ・幹線道路沿道における商業施設の誘致 (13%) |
| 都 市 交 通 | ・身近な生活道路の維持補修 (23%) ・冬期の除雪や凍結防止の対応 (20%) |
| 都 市 施 設 | ・高齢者のための施設整備と充実 (19%) ・主要施設のバリアフリー化 (13%) |
| 都 市 環 境 | ・各地域特有の資源を活かした景観づくり (18%) ・市街地周辺の自然環境や田園環境の保全 (13%) |
| 都 市 防 災 | ・防災情報の周知と共有化 (20%) ・防災機能を有した庁舎や公園等の整備 (17%) |
| 地域づくりの方向性 | ・医療・福祉施設が充実したまち (19%) ・災害に強い安全なまち (12%) |

(2) 地区の主な意見

町民アンケート、町内会長ヒアリングにおける主な意見は以下のとおりです。

■地域の強み

- ・豊かな自然と牧歌的な風景が地域の宝である
- ・豊かな自然・歴史を身近に感じることができる
- ・名馬のふるさと「社台」として知名度がある

■地域の弱み

- ・高齢化が進み、空き地、空家が増えている
- ・少子化が進み、地域の子どもの数が減少している
- ・閑静で自然に恵まれているが、生活利便性については不満を感じている

■これからの地域づくりに必要なもの

- ・自然や緑が豊かで安心なまちを将来世代に継承していくことが大切である
- ・公共施設や空き地・空家の有効活用による良好な住環境の整備が求められる
- ・自然環境を保全し、観光資源として活用することが望まれる
- ・自然環境や景観に配慮しながら、魅力的な交流拠点の形成が求められる
- ・津波・高潮・高波など、海の災害に対する対策が求められる

3 地域づくりの方針

(1) 地域づくりの目標

美しい自然環境や原風景を守りつつ、多彩な交流を促す地域づくり

本町を代表する牧歌的な風景やインクラの滝、ヨコスト湿原などの自然景観を将来世代に守り継いでいくとともに、これらの資源を活用し多彩な交流を生み出す地域づくりを目指します。

(2) 地域づくりの方針

① 土地利用

- ・社台市街地、ヨコスト団地など、市街化調整区域にある都市計画法第34条第11号の規定に基づく条例指定区域及び旧住宅地造成事業に関する法律により造成された既存住宅地は、適切な規制と誘導によって良好な住環境を維持します。
- ・その他の市街化調整区域は原則として開発を抑制し、地域固有の自然や風土への配慮に努めます。

② 都市交通

- ・鉄北幹線（仮称 苫小牧登別通）の整備を関係機関に要望し、災害に強い交通網を確保します。
- ・地域内の円滑な移動と歩行者の安全を確保するため、生活道路の適切な維持・管理に努めます。
- ・交通事故防止における啓発活動や地域要望などを踏まえた交通安全施設等の整備を推進します。
- ・白老町橋梁長寿命化計画に基づき、地区内にある橋梁の適切な維持・管理等に努めます。
- ・関係機関と連携・協力しながらJRや都市間バスの維持・確保に努めます。また、地域内においてはデマンドバスの運行体制等の充実や需要喚起による利用促進に努め、持続可能な公共交通を推進します。

③ 都市施設

- ・水道施設や管路の適切な維持管理と計画的な更新に努めるとともに、今後の人口減少社会における水需要を踏まえ、水道管径のダウンサイジングを検討します。
- ・既存下水道施設の計画的な更新、維持・管理に努めるとともに、供用区域外については合併処理浄化槽の設置促進を図ります。
- ・地域内の公共施設にあたっては、公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、計画的な管理・運営を推進します。
- ・旧社台小学校の校舎については、ウポポイを補完する施設として継続活用するよう関係機関に対して働きかけます。

④都市環境

- ・自然環境の保全と創造に努め、その利用にあたっては節度をもって計画的に行います。
- ・樽前山をはじめ、牧場、海岸など、鉄道の車窓や国道 36 号から見えるのどかな景観の修景を推進します。
- ・地域の景観を著しく損ね、無秩序かつ過剰に設置される構築物の法的規制について検討を進めます。
- ・幹線道路の沿線は、町民と行政の協働により、来訪者等のアプローチにふさわしい良好な景観の保全や環境美化等に努めます。
- ・ヨコスト湿原やインクラの滝など、地域を代表する自然資源を将来にわたり守り続けていくとともに、環境教育の場としても活用していきます。
- ・国道沿線の牧场景観や地域の豊かな自然資源を最大限に活かし、交流人口の拡大促進を図ります。
- ・農山村の優れた自然景観や資源を活用したグリーンツーリズムを推進し、地域の活性化につなげます。

⑤ 都市防災

- ・災害時における避難場所の整備や確保、避難経路の周知など、減災に向けた取組みを推進します。
- ・自主防災組織の育成や防災活動に対する支援を行います。
- ・津波からの迅速かつ確実な避難を実現させるため、津波一時避難施設の確保に努めます。
- ・空家の未然防止や有効活用のための取組みを推進するとともに、管理不全の空家等に対する法定措置を検討します。

Ⅲ 白老・森野地区

1 地域の概況・特性

(1) 地域の概況

白老地区は古くから本町の中心地として栄えてきた鉄南地区、宅地造成事業や土地区画整理事業など新市街地として計画的に開発が進められてきた鉄北地区、北側の内陸部に位置し伊達市大滝区と接する森野地区からなっています。

本地区の中心には主要な公共施設や医療施設、商業施設等の都市機能が数多く集積しており、その周囲には住宅地が立地するなど、町民の利便に供した環境が整っています。

アイヌ文化の発信拠点であるウポポイや仙台藩陣屋の歴史を保存伝承する文化施設をはじめ、白老駅北地区を中心とした観光拠点やポロトの森でのレクリエーション施設など、まちのにぎわいを生み出す様々な施設が立地しています。



白老

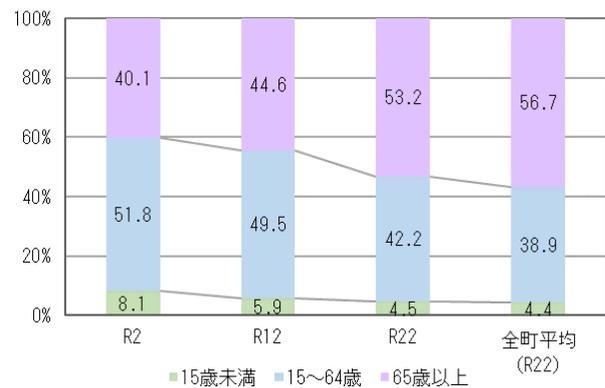
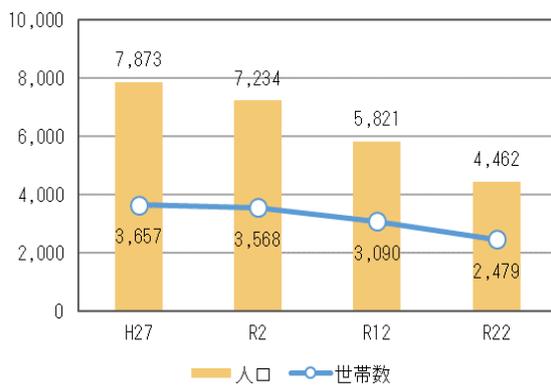


民族共生象徴空間ウポポイ



JR白老駅と自由通路

(2) 人口・世帯数の動向



令和2年(2020年)の人口は7,234人であり、町全体の人口の約45.3%が居住しています。6地区の中で最も人口が多い地区ですが、20年後の令和22年(2040年)には、今より2,800人程度、人口が減少し、4,462人となる見込みです。

年齢別人口をみると令和22年の年少人口比率は現在より3.6%減の4.5%に、老年人口比率は13.1%増の53.2%になると想定されています。

2 地域づくりに向けた町民の声

(1) 町民アンケート結果

白老・森野地区における分野別方針等の今後の方向性は以下のとおりです。

| | |
|-----------|--|
| 土地 利 用 | ・活用可能な空き地・空家の有効活用 (23%) ・中心市街地の再整備 (14%) |
| 都 市 交 通 | ・身近な生活道路の維持補修 (20%) ・冬期の除雪や凍結防止の対応 (17%) |
| 都 市 施 設 | ・高齢者のための施設整備と充実 (16%) ・経済性を重視した公共施設の老朽化対策 (15%) |
| 都 市 環 境 | ・公園施設の廃止や更新による安全性の確保 (21%) ・民間のニーズを反映した公園の再整備 (13%) |
| 都 市 防 災 | ・公共施設やライフラインの耐震化等 (17%) ・防災機能を有した庁舎や公園等の整備 (16%) |
| 地域づくりの方向性 | ・医療・福祉施設が充実したまち (21%) ・商店街に活気やにぎわいがあるまち (15%) |

(2) 地区の主な意見

町民アンケート、町内会長ヒアリングにおける主な意見は以下のとおりです。

■地域の強み

- ・高速道路のICがあり、白老駅に特急「北斗」が停車するなど、交通の便がよい
- ・行政機能、金融機関、医療福祉施設などの都市機能が集まり、生活利便性が高い
- ・ポロト湖やポロト自然休養林など、市街地近郊に身近な自然がある
- ・古くからアイヌの歴史や文化が息づいている
- ・アイヌ文化の発信拠点であるウポポイを中心に多くの来訪者が期待される

■地域の弱み

- ・人口減少により中心市街地の低密度化が進んでいる
- ・少子化が進み、地域の子どもの数が減少している
- ・空き地、空家の増加や公共施設の有効活用が課題となっている

■これからの地域づくりに必要なもの

- ・都市機能の集約と居住誘導による機能的な都市づくりが求められる
- ・ウポポイを起爆剤とした観光振興、交流人口の拡大、関係人口の創出が期待される
- ・公共施設の適正配置や存廃等の方向性について検討が必要である
- ・津波をはじめとした海の災害、土砂災害、河川氾濫に対する対策が求められる

3 地域づくりの方針

(1) 地域づくりの目標

中心拠点としての機能を高め、快適で魅力的なにぎわいのある地域づくり

国内外から訪れる多様な人々をもてなす空間づくりと都市機能の集積を図りながら、交流の機会と場を創出し、にぎわいのある都市拠点の形成とまちの魅力を高める地域づくりを目指します。

(2) 地域づくりの方針

① 土地利用

- ・白老駅北周辺の工業地については、将来の土地利用の動向を踏まえ、商業業務地への転換を検討し、公共施設等の集積による都市機能の集約化を目指します。
- ・ポロト湖周辺地域については、「民族共生象徴空間」基本構想に基づき、用途地域の見直しを含めて適切な土地利用を検討します。
- ・白老駅周辺については、商業業務地として、地域住民をはじめ交流人口の増加に資する施設等の立地・誘導を図り、にぎわいが持続する土地利用を目指します。
- ・住宅と商業施設等が近接する利便性の高い住宅地の形成を目指します。
- ・緑町や高砂町の一部など市街化調整区域にある都市計画法第34条第11号の規定に基づく条例指定区域については、適切な規制と誘導によって良好な住環境を維持します。
- ・その他の市街化調整区域は原則として開発を抑制し、地域固有の自然や風土への配慮に努めます。
- ・地域住民との協働や民間活力の活用等の多様な手法により、旧白老小学校跡地の有効利用を検討します。

② 都市交通

- ・鉄北幹線（仮称 苫小牧登別通）の整備を関係機関に要望し、災害に強い交通網を確保します。また、地域内の都市計画道路については将来道路網の需要予測等を踏まえ、計画路線の見直しを検討します。
- ・地域内の円滑な移動と歩行者の安全を確保するため、生活道路の適切な維持・管理と交通安全対策等の充実を図ります。
- ・白老町橋梁長寿命化計画に基づき、幹線道路の橋梁である白老橋の長寿命化対策を推進するとともに、地域内にある橋梁の適切な維持・管理等に努めます。
- ・公共交通網形成計画の施策に取り組み、公共交通の維持・利便性の向上に努めます。

③ 都市施設

- ・水道施設や管路の適切な維持管理と計画的な更新に努めるとともに、今後の人口減少社会における水需要を踏まえ、水道管径のダウンサイジングを検討します。

- ・既存下水道施設の計画的な更新、維持・管理に努めるとともに、供用区域外については合併処理浄化槽の設置促進を図ります。
- ・環境衛生センターの適切な維持管理に努めるとともに、最終処分場の残余容量対策について今後の方向性を検討します。
- ・緑ヶ丘団地、西団地、美園団地の低層棟は建て替えを検討します。美園団地の中層棟については、計画的な修繕を行いながら維持管理に努めます。
- ・町立病院の早期改築と役場庁舎の建て替え検討を進めます。また、白老生活館と白老中央生活館の2施設統合による建て替えも推進します。
- ・地区内の公共施設にあたっては、公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、計画的な管理・運営を推進します。
- ・市街地内における歩行者の安全性や快適性を高めるため、公共空間のバリアフリー化を推進します。
- ・公共施設の整備にあたっては、施設利用者の利便性に配慮し、市街地内における適正配置に努め、コンパクトな市街地形成を図ります。

④都市環境

- ・自然環境の保全と創出に努め、その利用にあたっては節度をもって計画的に行います。
- ・都市における二酸化炭素の排出を抑制するため、コンパクトな市街地形成を推進するとともに、森林や緑地などの樹木の保全とあわせ、市街地内の公園や河川空間、道路空間における緑の確保に努めます。
- ・幹線道路の沿線は、町民と行政の協働により、来訪者等のアプローチにふさわしい良好な景観の保全や環境美化等に努めます。
- ・老朽化もしくは破損した施設や廃屋、看板など、良好な景観を阻害する要因の改善に向け、所有者に対する管理指導に努めます。
- ・白老駅周辺は、まちの顔として自然と文化が調和したシンボル性のある総合的な景観づくりに努めます。また、ウポポイへの来訪者を花でおもてなしする取り組み等についても推進します。
- ・既存の公園については、施設の利用状況や老朽化等を踏まえ、適切な維持・管理に努めます。また、災害時の一時避難場所など、防災的な視点に配慮します。
- ・ポロト自然休養林は自然体験型レクリエーション拠点として整備を進めるとともに、環境教育の場としても活用していきます。
- ・歴史的遺構である白老仙台藩陣屋跡については、地域固有の貴重な資源として保全し、町の歴史に親しむ場として活用を図ります。
- ・農山村の優れた自然景観や資源を活用したグリーンツーリズムを推進し、地域の活性化につなげます。

⑤都市防災

- ・災害時における避難場所の整備や確保、避難経路の周知など、減災に向けた取組みを推進します。
- ・自主防災組織の育成や防災活動に対する支援を行います。
- ・洪水被害の解消を目的とした白老川の改修を関係機関に対して要請します。

- ・波浪、高潮被害の解消と砂浜回復による海岸保全を目的とした人工リーフの整備を関係機関に対して要請します。
- ・雨水による浸水被害を抑制するため、排水路などの整備を推進します。
- ・土砂災害のおそれのある箇所については、ハザードマップによる危険の周知に努めるとともに、町民の防災意識の醸成を図ります。
- ・津波からの迅速かつ確実な避難を実現させるため、津波一時避難施設の確保に努めます。また、新たに建設する町立病院については、屋上を地域住民の津波一時避難場所として活用できるよう整備を進めます。
- ・空家の未然防止や有効活用のための取り組みを推進するとともに、管理不全の空家等に対する法定措置を検討します。

IV 萩野・石山地区

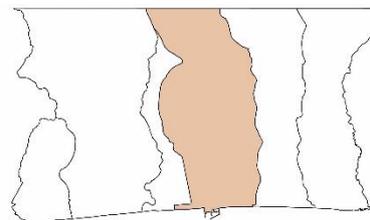
1 地域の概況・特性

(1) 地域の概況

石山・萩野地区は本町の中央に位置し、国道 36 号と道央自動車道の間市街地が形成されています。

石山地区には地方港湾白老港を有する流通の拠点や工業団地があり、また、萩野地区には萩の里自然公園を中心とした豊かな自然が広がっています。

この地域には、昭和 40 年代後半から造成された温泉付き住宅地が各地に広がっています。



萩野・石山

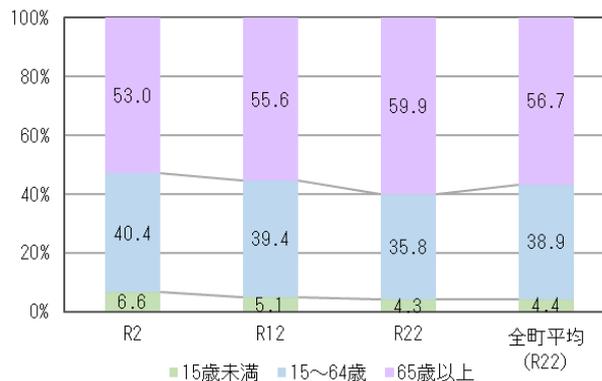
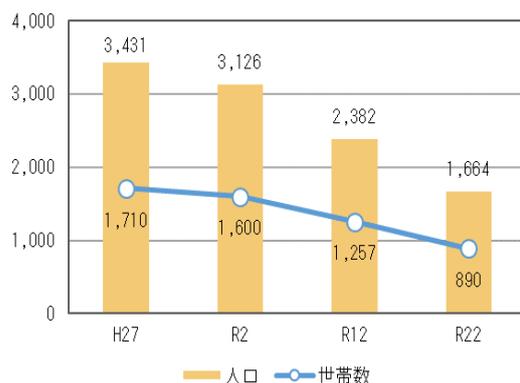


萩の里自然公園センターハウス



白老港における荷役作業

(2) 人口・世帯数の動向



令和 2 年 (2020 年) の人口は 3,126 人であり、町全体の人口の約 19.6%が居住しています。20 年後の令和 22 年 (2040 年) には、今より 1,460 人程度、人口が減少し、1,664 人となる見込みです。

年齢別人口をみると令和 22 年の年少人口比率は現在より 2.3%減の 4.3%に、老年人口比率は 6.9%増の 59.9%になると想定されています。

2 地域づくりに向けた町民の声

(1) 町民アンケート結果

萩野・石山地区における分野別方針等の今後の方向性は以下のとおりです。

| | |
|-----------|---|
| 土地 利 用 | ・活用可能な空き地・空家の有効活用（19%） ・幹線道路沿道における商業施設の誘致（16%） |
| 都 市 交 通 | ・身近な生活道路の維持補修（22%） ・冬期の除雪や凍結防止の対応（20%） |
| 都 市 施 設 | ・高齢者のための施設整備と充実（18%） ・経済性を重視した公共施設の老朽化対策（13%） |
| 都 市 環 境 | ・公園施設の廃止や更新による安全性の確保（18%） ・町民ニーズを反映した公園の再整備（15%） |
| 都 市 防 災 | ・公共施設やライフラインの耐震化等（15%） ・防災情報の周知と共有化（13%） |
| 地域づくりの方向性 | ・医療・福祉施設が充実したまち（23%） ・商店街に活気やにぎわいがあるまち（12%） |

(2) 地区の主な意見

町民アンケート、町内会長ヒアリングにおける主な意見は以下のとおりです。

■地域の強み

- ・地方港湾白老港や石山工業団地など、白老町の産業及び流通の拠点である
- ・地域の里山である萩の里自然公園やサケの遡上が見られるウヨロ川フットパスが整備され、身近に自然観察や散策が体験できる
- ・温泉付き宅地が郊外に分布しており、町外からの移住者や別荘が多い

■地域の弱み

- ・高齢化が進み、空き地・空家が多くなっている
- ・少子化が進み、地域の子どもの数が減少している
- ・開発された宅地分譲地等に多くの空き地が見られる
- ・地域商店や幹線道路沿道の商店が閉店し、買物環境が悪化している

■これからの地域づくりに必要なもの

- ・工業団地の効率的利用と基盤整備を進め、企業立地の促進を図ることが必要である
- ・豊かな自然環境を保全し、後世に残していくことが求められる
- ・自然観察や散策など地域特有の資源を活用し、地域の魅力を高めることが重要である
- ・温泉付き住宅など魅力的な居住環境を活かし、移住や二地域居住の推進が求められる
- ・津波・高潮・高波など、海の災害や土砂災害に対する対策が求められる

3 地域づくりの方針

(1) 地域づくりの目標

豊かな里山の自然と産業拠点が共存し、安らぎと活力を生み出す地域づくり

ウヨロ川流域の湿地帯や萩の里自然公園など里山自然環境を保全・活用しつつ、まちの活力を生み出す白老港や工業団地との共存を図り、住む人に安らぎを、まちに活気を与える地域づくりを目指します。

(2) 地域づくりの方針

① 土地利用

- ・萩野駅周辺の商業地については、将来の土地利用の動向を踏まえ、住宅地への転換を検討し、良好な住環境の維持と適切な土地利用の推進を図ります。
- ・石山地区の工業団地については、工業系土地利用に特化した良好な操業環境の維持を図ります。
- ・白老港臨港地区については、港湾計画に基づき適切な土地利用を図ります。
- ・石山地区、東萩野地区など、市街化調整区域にある都市計画法第34条第11号の規定に基づく条例指定区域及び旧住宅地造成事業に関する法律により造成された既存住宅地は、適切な規制と誘導によって良好な住環境を維持します。
- ・その他の市街化調整区域は原則として開発を抑制し、地域固有の自然や風土への配慮に努めます。

② 都市交通

- ・国道36号の全線4車線化を関係機関に対して要望します。
- ・地域内の円滑な移動と歩行者の安全を確保するため、生活道路の適切な維持・管理と交通安全対策等の充実を図ります。
- ・白老町橋梁長寿命化計画に基づき、地区内にある橋梁の適切な維持・管理等に努めます。
- ・関係機関と連携・協力しながらJRや都市間バスの維持・確保に努めます。また、地域内においては、元気号、デマンドバス、交流促進バスの複合的な運行によるサービス向上と需要喚起による利用促進に努め、持続可能な公共交通を推進します。

③ 都市施設

- ・白老港第3商港区の整備促進及び漁港区の狭隘化解消等について、関係機関に対して要請します。
- ・水道施設や管路の適切な維持管理と計画的な更新に努めるとともに、今後の人口減少社会における水需要を踏まえ、水道管径のダウンサイジングを検討します。
- ・既存下水道施設の計画的な更新、維持・管理に努めるとともに、供用区域外については合併処理浄化槽の設置促進を図ります。

- ・はまなす団地は用途廃止とし、旭ヶ丘団地は建て替えを検討します。
- ・地区内の公共施設にあたっては、公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、計画的な管理・運営を推進します。

④ 都市環境

- ・自然環境の保全と創造に努め、その利用にあたっては節度をもって計画的に行います。
- ・森林・河川・海岸などの自然景観は、将来に引き継ぐべき貴重な自然資源として、その維持保全を図ります。
- ・幹線道路の沿線は、町民と行政の協働により、来訪者等のアプローチにふさわしい良好な景観の保全や環境美化等に努めます。
- ・町民・事業者・行政がそれぞれの役割を果たしながら、地域的美観保持と環境美化意識の向上に向けた取り組み等を推進します。
- ・既存の公園については、施設の利用状況や老朽化等を踏まえ、適切な維持・管理に努めます。また、災害時の一時避難場所など、防災的な視点に配慮します。
- ・萩の里自然公園の里山保全活動やウヨロ川の自然環境活動などを支援し、身近な自然環境の保全や整備、環境教育の場としての活用等に努めます。
- ・農山村の優れた自然景観や資源を活用したグリーンツーリズムを推進し、地域の活性化につなげます。

⑤ 都市防災

- ・災害時における避難場所の整備や確保、避難経路の周知など、減災に向けた取り組みを推進します。
- ・自主防災組織の育成や防災活動に対する支援を行います。
- ・雨水による浸水被害を抑制するため、継続的に排水路などの整備を推進します。
- ・洪水被害の解消を目的としたブウベツ川、ウヨロ川の改修を関係機関に対して要請します。
- ・波浪、高潮被害の解消を目的とした人工リーフの整備を関係機関に対して要請します。
- ・土砂災害のおそれのある箇所については、ハザードマップによる危険の周知に努めるとともに、町民の防災意識の醸成を図ります。
- ・津波からの迅速かつ確実な避難を実現させるため、津波一時避難施設の確保に努めます。
- ・空家の未然防止や有効活用のための取り組みを推進するとともに、管理不全の空家等に対する法定措置を検討します。

V 北吉原地区

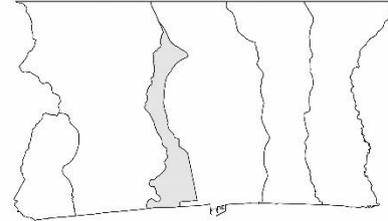
1 地域の概況・特性

(1) 地域の概況

北吉原地区は本町の中央に位置し、国道 36 号と道央自動車道の間市街地が形成されています。

本地区は古くから製紙工場の城下町として栄え、今でも町内を代表する工業拠点となっています。また、滑空場やスポーツ施設など産業・レクリエーション機能も有しています。

この地域には昭和 40 年代後半から造成された温泉付き住宅地が各地に広がっています。



北吉原

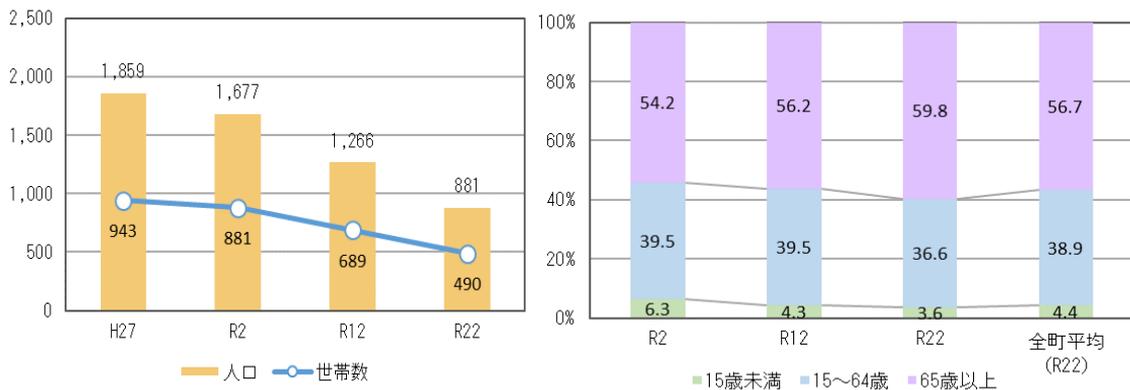


日本製紙機工場



はまなすスポーツセンター

(2) 人口・世帯数の動向



令和 2 年 (2020 年) の人口は 1,677 人であり、町全体の人口の約 10.5% が居住しています。20 年後の令和 22 年 (2040 年) には、今より 800 人程度、人口が減少し、881 人となる見込みです。

年齢別人口をみると令和 22 年の年少人口比率は現在より 2.7% 減の 3.6% に、老年人口比率は 5.6 増の 59.8% になると想定されています。

2 地域づくりに向けた町民の声

(1) 町民アンケート結果

北吉原地区における分野別方針等の今後の方向性は以下のとおりです。

| | |
|-----------|---|
| 土地 利 用 | ・活用可能な空き地・空家の有効活用（25%） ・幹線道路沿道における商業施設の誘致（13%） |
| 都 市 交 通 | ・身近な生活道路の維持補修（23%） ・冬期の除雪や凍結防止の対応（19%） |
| 都 市 施 設 | ・高齢者のための施設整備と充実（23%） ・経済性を重視した公共施設の老朽化対策（14%） |
| 都 市 環 境 | ・公園施設の廃止や更新による安全性の確保（18%） ・各地域特有の資源を活かした景観づくり（16%） |
| 都 市 防 災 | ・公共施設やライフラインの耐震化等（16%） ・防災情報の周知と共有化（15%） |
| 地域づくりの方向性 | ・医療・福祉施設が充実したまち（22%） ・災害に強い安全なまち（16%） |

(2) 地区の主な意見

町民アンケート、町内会長ヒアリングにおける主な意見は以下のとおりです。

■地域の強み

- ・大企業の工場があり、町内の製造業の拠点である
- ・白老町の野球文化の拠点であり、スポーツ文化のけん引役である
- ・温泉付き宅地が郊外に分布しており、町外からの移住者や別荘が多い

■地域の弱み

- ・高齢化が進み、空き地・空家が多くなっている
- ・少子化が進み、地域の子どもの数が減少している
- ・開発された宅地分譲地や既存商店街等に多くの空き地が見られる
- ・地域商店や幹線道路沿道の商店が閉店し、買物環境が悪化している

■これからの地域づくりに必要なもの

- ・主要産業である製造業が発展し、活力あふれる地域となることが望まれる
- ・温泉付き住宅など魅力的な居住環境を活かし、移住や二地域居住の推進が求められる
- ・空き地・空家の有効活用による良好な住環境の整備が求められる
- ・津波・高潮・高波など、海の災害に対する対策が求められる

3 地域づくりの方針

(1) 地域づくりの目標

工業城下町として、潤いのある暮らしと活気ある産業がともに息づく地域づくり

工業城下町として、まちの元気を生み出す拠点に位置付けながら、潤いある居住環境の形成や活気ある産業がともに息づく地域づくりを目指します。

(2) 地域づくりの方針

① 土地利用

- ・北吉原中通り周辺の商業地については、将来の土地利用の動向を踏まえ、住宅地への転換を検討し、良好な住環境の維持と適切な土地利用の推進を図ります。
- ・北吉原地区の工場敷地内にある住宅地の一部を工業地に転換し、周辺の工業地と一体となった土地利用を進めます。
- ・柏洋団地、ゆうかり団地など、旧住宅地造成事業に関する法律により造成された既存住宅地は、適切な規制と誘導によって良好な住環境を維持します。
- ・その他の市街化調整区域は原則として開発を抑制し、地域固有の自然や風土への配慮に努めます。

② 都市交通

- ・国道 36 号の全線 4 車線化を関係機関に対して要望します。
- ・災害時の救援用ヘリポートとなる滑空場と白老港を結ぶ白老滑空場線・萩野 12 間線を適切に管理し、緊急輸送道路の確保に努めます。
- ・地域内の円滑な移動と歩行者の安全を確保するため、生活道路の適切な維持・管理と交通安全対策等の充実を図ります。
- ・白老町橋梁長寿命化計画に基づき、地区内にある橋梁の適切な維持・管理等に努めます。
- ・関係機関と連携・協力しながら J R や都市間バスの維持・確保に努めます。また、地域内においては、元気号、デマンドバスの複合的な運行によるサービス向上と需要喚起による利用促進に努め、持続可能な公共交通を推進します。

③ 都市施設

- ・水道施設や管路の適切な維持管理と計画的な更新に努めるとともに、今後の人口減少社会における水需要を踏まえ、水道管径のダウンサイジングを検討します。
- ・既存下水道施設の計画的な更新、維持・管理に努めるとともに、供用区域外については合併処理浄化槽の設置促進を図ります。
- ・地区内の公共施設にあたっては、公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、計画的な管理・運営を推進します。

④ 都市環境

- ・自然環境の保全と創造に努め、その利用にあたっては節度をもって計画的に行います。
- ・森林・河川・海岸などの自然景観は、将来に引き継ぐべき貴重な自然資源として、その維持保全を図ります。
- ・幹線道路の沿線は、町民と行政の協働により、来訪者等のアプローチにふさわしい良好な景観の保全や環境美化等に努めます。
- ・既存の公園については、施設の利用状況や老朽化等を踏まえ、適切な維持・管理に努めます。また、災害時の一時避難場所など、防災的な視点に配慮します。

⑤ 都市防災

- ・災害時における避難場所の整備や確保、避難経路の周知など、減災に向けた取組みを推進します。
- ・自主防災組織の育成や防災活動に対する支援を行います。
- ・雨水による浸水被害を抑制するため、排水路などの整備を推進します。
- ・大規模盛土造成地の滑動崩壊の予防対策を推進するとともに、宅地防災のための知識の普及に努めます。
- ・波浪、高潮被害の解消を目的とした人工リーフの整備を関係機関に対して要請します。
- ・津波からの迅速かつ確実な避難を実現させるため、津波一時避難施設の確保に努めます。
- ・空家の未然防止や有効活用のための取組みを推進するとともに、管理不全の空家等に対する法定措置を検討します。

VI 竹浦地区

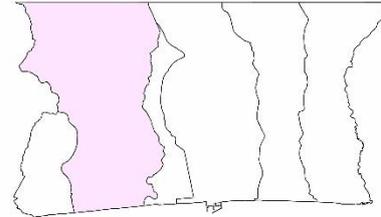
1 地域の概況・特性

(1) 地域の概況

竹浦地区は本町の西部に位置し、国道沿線や JR 竹浦駅付近に市街地が形成されています。

本地区の国道沿線には、海産物の販売や飲食店、温泉・ホテル等の商業・観光施設のほか、高齢者福祉施設などがあります。また、地区全域に温泉付きの住宅地が広がっています。

地区北部の飛生地区には社会福祉施設や小学校跡を活用した芸術活動拠点をはじめ、しいたけ栽培や養鶏、碎石プラントなど多くの産業が立地しています。



竹浦

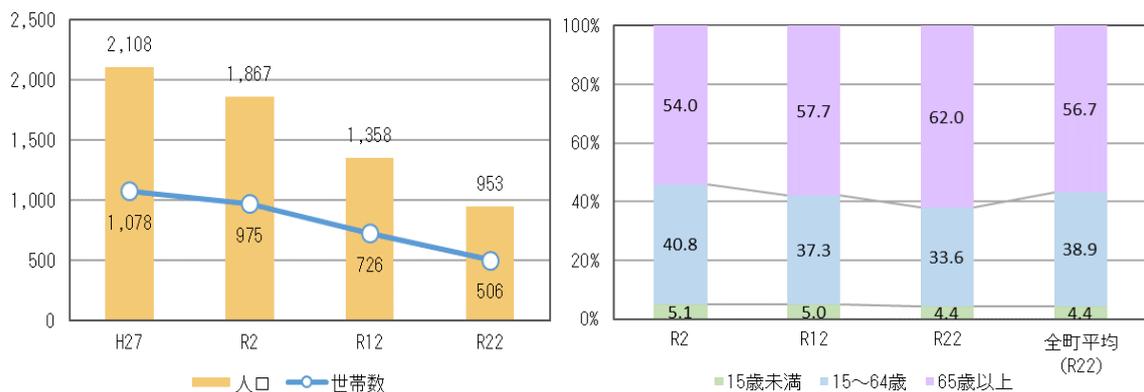


国道沿線の福祉施設



旧飛生小学校跡地

(2) 人口・世帯数の動向



令和2年(2020年)の人口は1,867人であり、町全体の人口の約11.7%が居住しています。20年後の令和22年(2040年)には、今より910人程度、人口が減少し、953人となる見込みです。

年齢別人口をみると令和22年の年少人口比率は現在より0.7%減の4.4%に、老年人口比率は8.0%増の62.0%になると想定されています。

2 地域づくりに向けた町民の声

(1) 町民アンケート結果

竹浦地区における分野別方針等の今後の方向性は以下のとおりです。

| | |
|-----------|---|
| 土地 利 用 | ・活用可能な空き地・空家の有効活用 (29%) ・幹線道路沿道における商業施設の誘致 (15%) |
| 都 市 交 通 | ・身近な生活道路の維持補修 (23%) ・冬期の除雪や凍結防止の対応 (21%) |
| 都 市 施 設 | ・高齢者のための施設整備と充実 (21%) ・経済性を重視した公共施設の老朽化対策 (13%) |
| 都 市 環 境 | ・公園施設の廃止や更新による安全性の確保 (17%) ・各地域特有の資源を活かした景観づくり (16%) |
| 都 市 防 災 | ・防災情報の周知と共有化 (17%) ・災害危険個所における開発の抑制 (14%) |
| 地域づくりの方向性 | ・医療・福祉施設が充実したまち (20%) ・企業の施設や工場が立地する雇用の多いまち (13%) |

(2) 地区の主な意見

町民アンケート、町内会長ヒアリングにおける主な意見は以下のとおりです。

■地域の強み

- ・温泉等の観光資源が充実している
- ・温泉付き宅地が郊外に分布しており、町外からの移住者や別荘が多い
- ・ドライブインや温泉民宿などの商業・観光施設が豊富である
- ・福祉施設や医療施設が多数立地している
- ・飛生地区では、飛生アートコミュニティによる芸術活動が盛んである

■地域の弱み

- ・高齢化が進み、空き地・空家が多くなっている
- ・少子化が進み、地域の子どもの数が減少している
- ・地域商店が閉店し買物する場所が少ないなど、生活利便性に不満がある

■これからの地域づくりに必要なもの

- ・良質な温泉や地場産品など地域特有の資源を活用し、まちを活性化していくことが求められる
- ・飛生アートコミュニティの芸術活動を活かした文化の向上や交流の促進が求められる
- ・国道沿線の温泉施設や商業施設等の活性化により、地域の活力と交流人口の増加を図ることが求められる
- ・津波をはじめとした海の災害、土砂災害、河川氾濫に対する対策が求められる

3 地域づくりの方針

(1) 地域づくりの目標

特色のある文化、コミュニティを大切にし、自然と観光が生活の中に根差す地域づくり

大自然と融合したアートコミュニティ活動を通じて、本町の芸術をけん引し、文化の向上や交流拠点の形成を図るとともに、地域資源である温泉を活用しながら、自然と観光が生活の中に根差す地域づくりを目指します。

(2) 地域づくりの方針

① 土地利用

- ・国道沿線の住宅地の一部については、将来の土地利用の動向を踏まえ、商業業務地への転換を検討し、広域観光拠点としての土地利用を推進します。
- ・本陣団地、クラウン団地など、市街化調整区域にある都市計画法第34条第11号の規定に基づく条例指定区域及び旧住宅地造成事業に関する法律により造成された既存住宅地は、適切な規制と誘導によって良好な住環境を維持します。
- ・その他の市街化調整区域は原則として開発を抑制し、地域固有の自然や風土への配慮に努めます。
- ・地域住民との協働や民間活力の活用等の多様な手法により、旧竹浦小学校跡地の有効利用を検討します。

② 都市交通

- ・国道36号の全線4車線化を関係機関に対して要望します。
- ・将来の鉄北幹線（仮称 苫小牧登別通）の開通を見据え、町道竹浦2番通りの整備を促進します。
- ・地域内の円滑な移動と歩行者の安全を確保するため、生活道路の適切な維持・管理と交通安全対策等の充実を図ります。
- ・白老町橋梁長寿命化計画に基づき、地区内にある橋梁の適切な維持・管理等に努めます。
- ・関係機関と連携・協力しながらJRや都市間バスの維持・確保に努めます。また、地域内においては、元気号、デマンドバスの複合的な運行によるサービス向上と需要喚起による利用促進に努め、持続可能な公共交通を推進します。

③ 都市施設

- ・水道施設や管路の適切な維持管理と計画的な更新に努めるとともに、今後の人口減少社会における水需要を踏まえ、水道管径のダウンサイジングを検討します。
- ・既存下水道施設の計画的な更新、維持・管理に努めるとともに、供用区域外については合併処理浄化槽の設置促進を図ります。
- ・竹っこ団地は計画的な維持管理に努め、長寿命化を図ります。

- ・地区内の公共施設にあたっては、公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、計画的な管理・運営を推進します。

④ 都市環境

- ・自然環境の保全と創造に努め、その利用にあたっては節度をもって計画的に行います。
- ・森林・河川・海岸などの自然景観は、将来に引き継ぐべき貴重な自然資源として、その維持保全を図ります。
- ・幹線道路の沿線は、町民と行政の協働により、来訪者等のアプローチにふさわしい良好な景観の保全や環境美化等に努めます。
- ・既存の公園については、施設の利用状況や老朽化等を踏まえ、適切な維持・管理に努めます。また、災害時の一時避難場所など、防災的な視点に配慮します。
- ・飛生アートコミュニティによる芸術活動を観光資源化し、交流人口の拡大促進を図ります。

⑤ 都市防災

- ・災害時における避難場所の整備や確保、避難経路の周知など、減災に向けた取り組みを推進します。
- ・自主防災組織の育成や防災活動に対する支援を行います。
- ・雨水による浸水被害を抑制するため、排水路などの整備を推進します。
- ・土砂災害のおそれのある箇所については、ハザードマップによる危険の周知に努めるとともに、町民の防災意識の醸成を図ります。
- ・大規模盛土造成地の滑動崩壊の予防対策を推進するとともに、宅地防災のための知識の普及に努めます。
- ・洪水被害の解消を目的とした敷生川の河口閉塞の改善及び飛生川の砂防事業の促進を関係機関に対して要請します。
- ・波浪、高潮被害の解消を目的とした竹浦海岸の離岸堤等整備を関係機関に対して要請します。
- ・津波からの迅速かつ確実な避難を実現させるため、津波一時避難施設の確保に努めます。
- ・空家の未然防止や有効活用のための取り組みを推進するとともに、管理不全の空家等に対する法定措置を検討します。

Ⅶ 虎杖浜地区

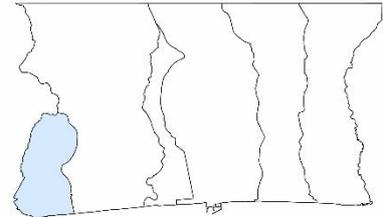
1 地域の概況・特性

(1) 地域の概況

虎杖浜地区は本町の西部に位置し、国道 36 号及び町道虎杖浜海岸通沿いに市街地が形成されています。

地域の主要産業は漁業で、鉄南地区は水産加工施設や海産物販売を中心とした商業や観光業が盛んな地域です。鉄北地区はクッタラ湖の湧水を利用した浄水場や水産養殖場、化粧品製造業があり、貴重な水の恵みを受けた地域となっています。

虎杖浜地区全域に温泉資源があり、それを利用した観光施設や住宅地が形成されています。



虎杖浜

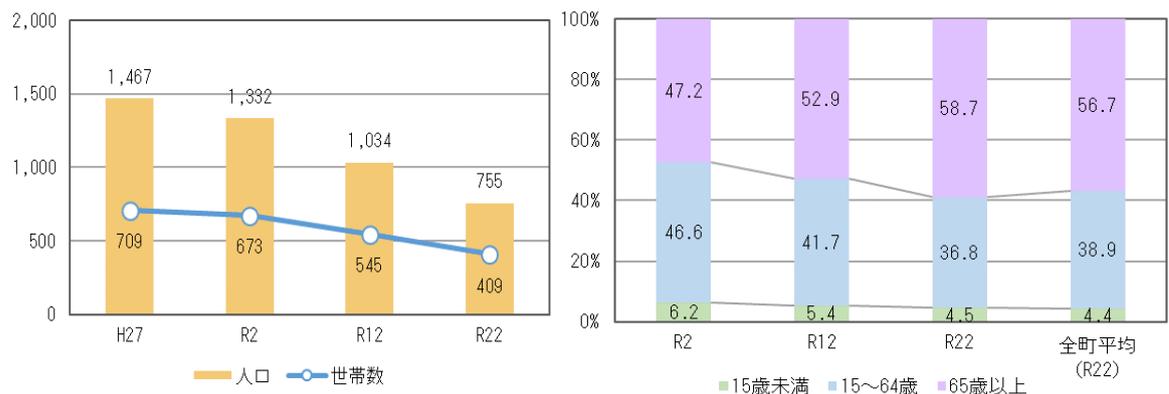


虎杖浜海岸通り（乾物街道）



アヨロ海岸

(2) 人口・世帯数の動向



令和 2 年（2020 年）の人口は 1,332 人であり、町全体の人口の約 8.3%が居住しています。20 年後の令和 22 年（2040 年）には、今より 580 人程度、人口が減少し、755 人となる見込みです。

年齢別人口をみると令和 22 年の年少人口比率は現在より 1.7%減の 4.5%に、老年人口比率は 11.5%増の 58.7%になると想定されています。

2 地域づくりに向けた町民の声

(1) 町民アンケート結果

虎杖浜地区における分野別方針等の今後の方向性は以下のとおりです。

| | |
|-----------|--|
| 土地 利 用 | ・活用可能な空き地・空家の有効活用（22%） ・既存住宅地の居住環境向上（18%） |
| 都 市 交 通 | ・冬期の除雪や凍結防止の対応（22%） ・身近な生活道路の維持補修（19%） |
| 都 市 施 設 | ・水洗化の普及とゴミ処理体制の充実（18%） ・高齢者のための施設整備と充実（17%） |
| 都 市 環 境 | ・公園施設の廃止や更新による安全性の確保（19%） ・親水空間の整備（14%） |
| 都 市 防 災 | ・主要施設への停電時対策（16%） ・防災情報の周知と共有化（14%） |
| 地域づくりの方向性 | ・医療・福祉施設が充実したまち（21%） ・災害に強い安全なまち（16%） |

(2) 地区の主な意見

町民アンケート、町内会長ヒアリングにおける主な意見は以下のとおりです。

■地域の強み

- ・漁業や水産加工業が盛んで海産物が豊富である。特に虎杖浜タラコは全国ブランドで地域の誇りである。また、クッタラ湖の湧水など水資源に恵まれている
- ・虎杖浜温泉として知名度があり、ドライブインや温泉ホテルなどの商業・観光施設が数多く立地している
- ・アヨロ海岸やクッタラ湖などの景勝地をはじめ、虎杖浜越後盆踊りなどの無形文化遺産があり、地域特有の資源に恵まれた地域である

■地域の弱み

- ・高齢化が進み、空き地・空家が多くなっている
- ・少子化が進み、地域の子どもの数が減少している
- ・幹線沿道や地域商店が閉店し、買物する場所が少ない

■これからの地域づくりに必要なもの

- ・良質な温泉や景勝地など地域特有の資源を活用し、まちを活性化していくことが求められる
- ・国道沿線の温泉施設や商業施設等の活性化により、地域の活力と交流人口の増加を図ることが求められる
- ・津波・高潮・高波など、海の災害や土砂災害等に対する対策が求められる

3 地域づくりの方針

(1) 地域づくりの目標

海の恵みや温泉などを活かし、観光レクリエーションによる個性ある地域づくり

湧水や海の幸、温泉など豊富な地域資源とアヨロ海岸や灯台など数多くの観光資源を最大限に活用しながら、交流型観光の推進を図るとともに、観光レクリエーションによる個性ある地域づくりを目指します。

(2) 地域づくりの方針

① 土地利用

- ・ 虎杖浜の前浜地区は、水産加工業と住宅が同じ区域内に混在する職住近接地域であることから、適切なルールのもと、工業系と居住系が両立できる土地利用を推進します。
- ・ 国道 36 号、町道虎杖浜海岸通りの沿道商業業務地は、既存の温泉施設を含め、地域特性や立地条件を活かした商業機能の集積を図り、地域の活力やにぎわいを創出する土地利用を推進します。
- ・ 臨海温泉地区、柏団地など、市街化調整区域にある都市計画法第 34 条第 11 号の規定に基づく条例指定区域及び旧住宅地造成事業に関する法律により造成された既存住宅地は、適切な規制と誘導によって良好な住環境を維持します。
- ・ その他の市街化調整区域は原則として開発を抑制し、地域固有の自然や風土への配慮に努めます。

② 都市交通

- ・ 地域内の円滑な移動と歩行者の安全を確保するため、生活道路の適切な維持・管理に努めます。
- ・ 交通事故防止における啓発活動や地域要望などを踏まえた交通安全施設等の整備を推進します。また、信号機や横断歩道の整備を関係機関に働きかけます。
- ・ 地域住民や関係者の理解を得ながら、地区内の狭隘道路の拡幅に努めます。
- ・ 白老町橋梁長寿命化計画に基づき、地区内にある橋梁の適切な維持・管理等に努めます。
- ・ 関係機関と連携・協力しながら J R や都市間バスの維持・確保に努めます。また、地域内においては、元気号、デマンドバスの複合的な運行によるサービス向上と需要喚起による利用促進に努め、持続可能な公共交通を推進します。

③ 都市施設

- ・ 水道施設や管路の適切な維持管理と計画的な更新に努めるとともに、今後の人口減少社会における水需要を踏まえ、水道管径のダウンサイジングを検討します。
- ・ 既存下水道施設の計画的な更新、維持・管理に努めるとともに、供用区域外については合併処理浄化槽の設置促進を図ります。

- ・ 虎杖浜団地は計画的な維持管理に努めます。
- ・ 地区内の公共施設にあたっては、公共施設等総合管理計画及び個別計画に基づき、計画的な管理・運営を推進します。

④ 都市環境

- ・ 自然環境の保全と創造に努め、その利用にあたっては節度をもって計画的に行います。また、環境教育を推進させ、環境保全のための意欲の増進を図ります。
- ・ 森林・河川・海岸などの自然景観は、将来に引き継ぐべき貴重な自然資源として、その維持保全を図ります。
- ・ 幹線道路の沿線は、町民と行政の協働により、来訪者等のアプローチにふさわしい良好な景観の保全や環境美化等に努めます。
- ・ 既存の公園については、施設の利用状況や老朽化等を踏まえ、適切な維持・管理に努めます。また、災害時の一時避難場所など、防災的な視点に配慮します。
- ・ アヨロ鼻灯台など観光交流拠点や眺望ポイントの整備を推進し、周遊環境の創出を図ります。
- ・ 虎杖浜越後盆踊りなど地域に根付いた行事や文化、風習を継承するとともに、観光資源として保全・活用することで交流人口の拡大につなげます。
- ・ 農山村の優れた自然景観や資源を活用したグリーンツーリズムを推進し、地域の活性化につなげます。

⑤ 都市防災

- ・ 災害時における避難場所の整備や確保、避難経路の周知など、減災に向けた取組みを推進します。
- ・ 自主防災組織の育成や防災活動に対する支援を行います。
- ・ 波浪、高潮被害の解消を目的とした虎杖浜海岸の離岸堤等整備を関係機関に対して要請します。
- ・ 土砂災害のおそれのある箇所については、ハザードマップによる危険の周知に努めるとともに、町民の防災意識の醸成を図ります。
- ・ 津波からの迅速かつ確実な避難を実現させるため、津波一時避難施設の確保に努めます。
- ・ 空家の未然防止や有効活用のための取組みを推進するとともに、管理不全の空家等に対する法定措置を検討します。